

消化器疾患を楽しく学ぶ！「大便強ドリル」

中野弘康

大船中央病院 内科



消化器症状を訴えて、
 プライマリ・ケア
 医を訪れる患者さんはと
 も多いです。“下痢”、
 “便秘”、“血便・黒色
 便”、“腹痛”、“食欲不

振”などのコモンな症状から、「健診を受けたらまた
 ま肝障害を指摘されました」「ピロリっていわれた
 けど、除菌はどうしたらよいの?」「最近便秘と腹
 痛で会社に行けません!」「天ぷら食べた後からお
 なかが痛い」等々まで、その訴えはさまざまです。

これらすべてに対応することは困難でも、日々フ
 ロントラインで患者さんの悩みに真正面から向き
 合っておられる先生方に向けて、「消化器領域の
 知識を整理できる問題集」を作ることができない
 か」そんなことを漠然と考えていました。

ちょうどその頃、特集『日本—マジメな おしっ
 こドリル—今これだけは押さえておきたい腎・泌尿器
 のモンダイ』（本誌2018年11月号）を手にする機
 会があり、その素晴らしい内容と構成に感動しま
 した。そこで、企画者であった敬愛する山中克郎
 先生にお力添えをいただき、多忙を極めるプライ
 マリ・ケア医に役立つクリニカル・パールをたく
 さん盛り込んだ、「消化器病勉強ドリル＝“大便
 強ドリル”」を企画させていただきました。

このドリルを開けば、消化器病で悩み・困っ
 ている患者さんを助けられるヒントがたくさん詰
 まっています。この問題集を解くことで、消化器
 疾患に対する興味が自然と湧いて、読者の皆様の
 日常診療のレベル向上につながれば幸いです。

お忙しい中「大便強ドリル」にご執筆いただい
 た先生方に、心より感謝を申し上げます。 **G**

山中克郎

福島県立医科大学会津医療センター



歳をとると物忘れが
 激しくなる。妻か
 らの頼みごとを忘れるな
 んてしょっちゅうだ。
 こんなことがあった。
 病棟の廊下を歩いている

と、向こうから80歳くらいの女性患者が満面の
 笑みを浮かべながら、ゆっくりとこちらに近づい
 てくる（どこかで会ったような気がするのだが、どこで
 会ったのか思い出せない）。

次第に距離が狭まる（ダメだ。全く覚えていない。
 差し障りのない話題から話さか。話しているうちに、
 きっと思い出さるう）。

「今日はいい天気ですね。お体の具合はいかが
 ですか?」

「入院してから少しずつ糖尿病は良くなってい
 ます」

「そうですか。よかったですね」（そうか！ 糖尿
 病の患者さんか。外来で糖尿病患者は何人が治療して
 いるから、外来から入院させた患者さんだな。こんな人が
 いたようにも思うけど、さて、誰だったかなあ）

10分くらい世間話をしていたが、もう話すこ
 とがなくなり、「では、お大事にしてください。
 転ばないように気をつけてね」と別れを告げた。

反対方向に歩き出した患者さんが突然振り返
 り、言った。「先生は、水谷先生ですよね?」

いったい私は誰なんだ!?



身体診察に熱い闘志を見せる中野弘康先生と、
 今回は消化器疾患を楽しく学ぶためのドリルを作
 りました。厳しいご批判をお待ちしています。 **G**